

2024_0509「目が開きはじめてムササビの子（動画）」日々の理科 3563号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

ムササビは授乳期間が2～3か月と、日本の野生齧歯目（げっしもく＝ねずみ目）の中では最長です。出産から約40日経ちますが、まだ母親の母乳だけで栄養を得ています。食欲は旺盛で、夜間に母親が巣から出ているわずかな間も、待ちきれないようです。

今回は、巣箱内と巣箱口を同時に録画した映像です。巣箱の中で母親を待っている2匹の子は、ヤマネのように丸くなって、ひたすらじっとしています。天敵（フクロウ、テン、キツネ、ヘビなど）から身を守るために、気配を消しているのです。巣箱のある木の幹に母親がふわりと帰ってくると、その気配に気づいた子の一匹が、顔をあげて待ち構えています。目も少し開いています。1週間前までは見られなかった行動です。母親が警戒しながらゆっくり巣箱に入ると、われ先にとお乳をねだり、巣箱内は大騒ぎになります。

子どもここまで大きくなれば、天敵（特にヘビ）の餌食になる可能性は低いです。しかしムササビの子の約30%は、巣立つ前に天敵の犠牲になったり、育児放棄で命を落とすという研究もありますので、これからも油断はできません。

（2024年5月上旬／北軽井沢／遠隔観察）

